

島崎クリニック

院長

## 島崎 修行

Shimasaki Nobuyuki

### Profile

広島県生まれ、高知県育ち。昭和大学医学部（現・昭和医科大学）卒業後、泌尿器科医として研鑽を積み、日本泌尿器科学会専門医を取得。父の後を継ぎ島崎クリニックを開業し、研究を続けながら医学博士号を取得。現在は小児科医の妻と共に小児発達障害外来も運営し、地域医療に尽力する。

### 資格

・日本泌尿器科学会専門医

### 所属学会／団体

・日本泌尿器科学会



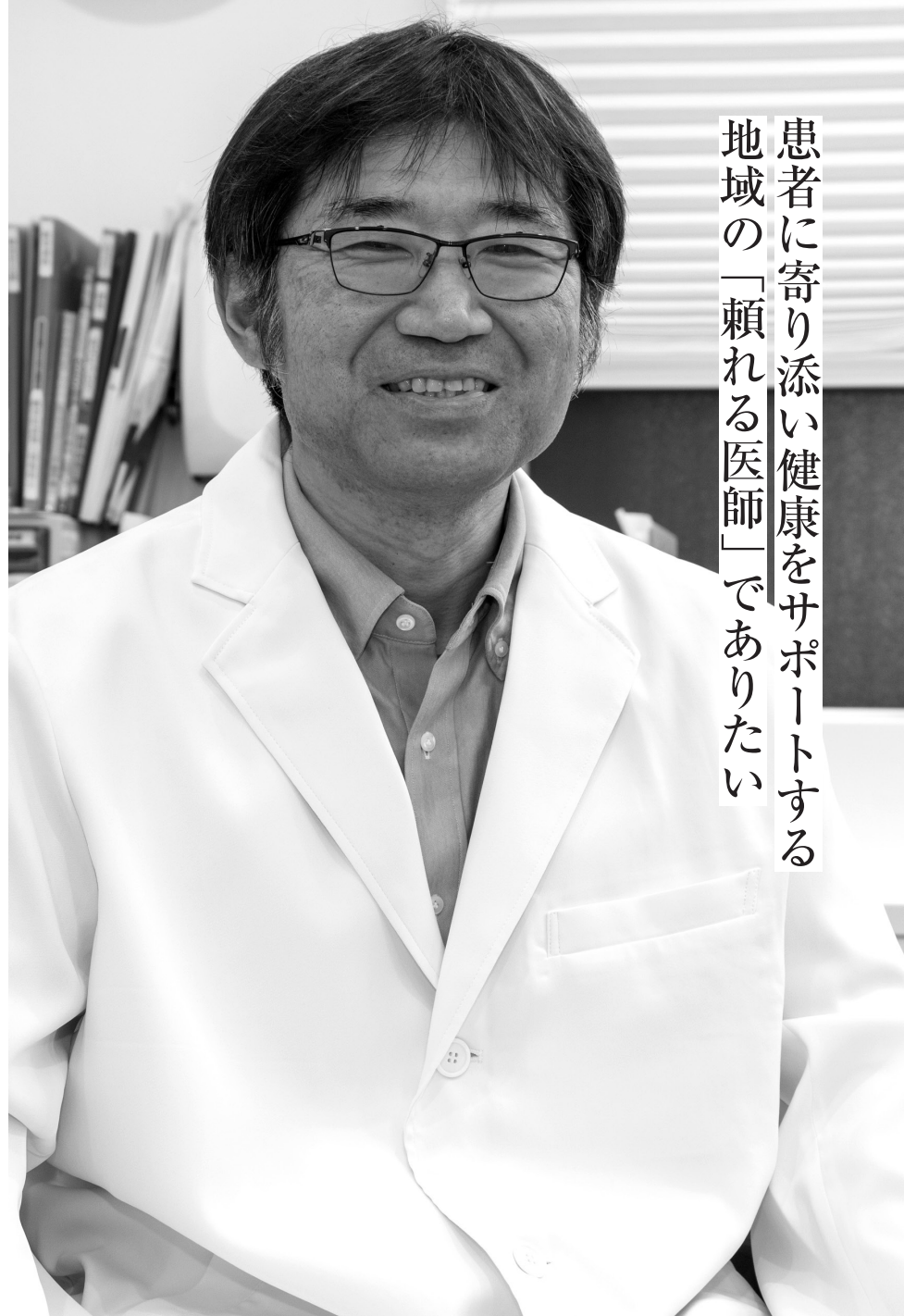
More  
Details

### Contact

高知県高知市棧橋通2丁目12番5号

<https://www.simasakiclinic.net>

患者に寄り添い健康をサポートする  
地域の「頼れる医師」でありたい



## 診療科目の枠を超え、 総合的な診療に注力し地域医療に貢献する

高知駅から車で約8分、土佐電鉄棧橋通一丁目駅から徒歩1分の立地にある島崎クリニックは、「町のお医者さん」として長年地元の人から親しまれてきた。泌尿器科専門医、医学博士で院長を務める島崎修行は、「患者さんと信頼関係を築くことが適切な医療の提供に結び付くと考えています」と話す。

島崎クリニックでは専門の泌尿器科、内科、皮膚科を軸に、腎臓内科や小児科、性病科など幅広く診療を行う。泌尿器科では、泌尿器全般の診察・治療のほか、男性特有のAGA（男性型脱毛症）やED（勃起不全）などの悩みにも対応。内科では高血圧症や糖尿病、脂質異常症など生活習慣病の予防と治療にも力を入れており、定期健診や管理栄養士による栄養管理指導なども実施している。

皮膚科では皮膚疾患全般とイボの焼灼やほくろの除去、患者からのニーズが高いシミ治療、美肌ケアなど美容皮膚科領域の治療も行い、シミ治療に適したレーザー機器を取り揃え、濃いシミから軽度のシミまで対応。患者のシミの種類を判別し、悩みに合った最適な治療方法を提案する。

また、腎臓内科として腎炎、腎盂炎、腎不全、足のむくみの治療も可能だ。2019年には小児科医の妻と協力して小児科を開設。予防接種や乳幼児健診、子どもの「こころの診療」にも対応できる体制を整えた。

島崎が幅広い診療科を設けた背景には、「地域のかかりつけ医」として患者の健康を守りたいという強い思いがある。

「当院の特徴は、泌尿器科だけでなく内科としても総合的な診察をできることです。専門の泌尿器科では最新の医療機器を用いて検査し、病状によっては手術を含めた適切な治療を行います。泌尿器はデリケートな部位ですので、『恥ずかしい』『年だから仕方ない』など受診をためらう人も少なくありません。だからこそ、当院では気軽に受診してもらえよう、プライバシーに配慮したきめ細やかな診察と、スタッフ一同、話しやすい雰囲気づくりを心がけています」

診療中、島崎が最も大事にしているのは患者とのコミュニケーションだ。クリニックには毎日多くの患者が来院するが、できるだけ患者一人ひとりの話に耳を傾け、不調はないか尋ねる。話を聞く中で少しでも病気の疑いがあれば、丁寧に検査し、病気が見付かった場合はその部位の専門医や対応できる医療機関を紹介。日々の診療の中で早めに病気を見つけ、適切な治療を受けられるよう患者をサポートする。

島崎は肝臓や大腸、腎臓の検査も得意としており、消化器からがんの肺転移を見付けたこともある。別の病院に通っているある男性患者を検査中、偶然、肝臓と大腸にがんが発覚。さらに肺にまで転移していることを突き止めた。その後、大学病院を紹介し、がんの早期治療に結び付けた。

「体の臓器はすべてつながっていますから、例えば泌尿器の不調から腎臓病が発覚することもありますし、高血圧が続いたら生活習慣病だけでなく腎臓疾患、内分泌疾患、睡眠時無呼吸症候群など二次性高血圧の疑いがあるなど、あらゆる角度から病気の可能性を探し、早期に治療できるよう努めています」

島崎がこれまで多くの患者を診察してきた中で、忘れられない若い男性患者がいる。ある日、初診でクリニックに来院したこの男性は、「泌尿器が不調で複数の病院を回ったが、原因がまったく分からない。症状が改善されずつらい」とひどく落ち込んでいた。

島崎は丁寧に問診し、あらゆる検査を実施。その結果、深刻な病気が発覚し、すぐに治療を施した。その後、回復した男性から島崎に手紙が届き、「先生に出会えて人生が変わった。ほかの病院では見付けられなかった病気を発見して治してくれた」と綴られていた。

「手紙は若者らしい文体で元氣よく書かれており、彼が回復したのだと思うとうれしかったですね。彼の人生がどのように変わったのかは分かりませんが、検査を通じて『絶対に

不調の原因を突き止める、病巣を見つける』という私の真剣な姿勢と強い想いを感じ取ってくれたのだと思います」

## 大学院生時代に訪れたピンチ。 父の後を継ぎクリニックを開業

島崎が医師を志したのは幼少の頃。島崎家は江戸時代末期から続く医師の家系で、父も泌尿器科、皮膚科医として日々患者と向き合っていた。そんな父の背中を見ながら、自然に「自分も医者になる」と思うようになった。医療に真摯に取り組む、かつ威厳のある父を尊敬していたが「自分はもっと親しみやすい医師になりたい」とぼんやり考えていた。

中学生時代はソフトボール部で3番ファーストとして活躍。音楽が好きで、高校生時代は軽音楽部でギターやベースに親しんだ。青春を謳歌し、昭和大学医学部（現・昭和医科大学）に進学してからは、さまざまな診療科目を学び、最終的に専門として泌尿器科を選んだ。

「父の病院を継ぐ目標があったことと、泌尿器科は内科と外科、双方の知識とスキルが必要なので、全身の臓器についても総合的に学べると考えました。泌尿器は消化器や腸にも

影響を及ぼしますし、子どもの頃から泌尿器疾患により痛みや尿が出ない症状に苦しむ患者を実家の病院で見てきたので、自分の手ですっきり治したいと思いました。将来的に、泌尿器を軸に全身を診療できる医師になりたいと考えていたんです」

大学を卒業し、医師免許を取得後、高知医科大学泌尿器科学教室や高知県立幡多けんみん病院などで研修医を務め、高知高須病院や高知大学医学部附属病院に勤務し、臨床経験を積んだ。

しかし、順調にキャリアを歩んでいた2004年、島崎にピンチが訪れる。父が病に倒れ、一時的に実家の病院が閉業せざるを得なくなったのだ。同年に高知大学大学院医学系研究科博士課程に進学したばかりだった島崎は焦りを感じた。

当時は大学院生で泌尿器科専門医の資格を取得していない頃。心の準備が十分にできていなかったが、「地域の患者のために診療を止めてはいけない」と自分を奮い立たせた。

こうして父の後を継ぎ、島崎クリニックを開業、院長に就任した。経営は母に任せ、昼間は診療、夜は大学院に戻って研究を続ける生活を2年ほど続け、2006年に大学院を修了。泌尿器専門医資格、博士号（医学）を取得した。

しかし、開業して間もない頃は日々の診療だけに集中し、忙しさのあまりスタッフのケアまで十分な心配りができていなかった。そのためスタッフが疲弊してしまい、患者から

応対について指摘を受けたこともあった。

「この時、病院経営の大変さが分かりました。診療以外にも経営知識、スタッフマネジメントや教育など勉強すべきことがたくさんあるなど痛感しました。スタッフを大切にすることが、自分の理想とする『患者ファースト』の診療を叶えるために重要なことだと思いました」

組織運営について気付きを得た島崎は、スタッフが働きやすい環境づくりに力を入れ、専門家による接遇の研修も行った。「地域医療のために、皆で力を合わせて診療する」というクリニックの理念を掲げ、週1回のスタッフミーティングを通じてその週の目標を共有。課題についても話し合うようになった。9人のスタッフと助け合いながら診療に取り組む、今では、患者からもスタッフの応対が好意的に評価されているという。

## 「患者を不安にさせない」 医師としての信念を持ち、学び続ける

思わぬ形でクリニックの開業に至った島崎だが、院長として診療を続ける中で父の想いを受け継ぎながら、自分の考えも運営に反映していきたいと話す。



「父は患者のどんな不調の声にも耳を傾けてきました。私も父のように患者と誠心誠意向き合う姿勢を大切に、この気持ちで患者にも伝わるような診療を続けたいです。一方で、父は責任感が強いあまり、人に任せることが不得手でした。私はそうではなく、スタッフや家族みんなで患者が信頼できる医療を提供していきたいと考えています」

「医学が好き」と話す島崎は、空いた時間には医学書や医学情報誌を読み、ときには学会に赴く。医療知識のアップデートを欠かさず、常に最新の知識に基づいた医療を提供できるように心がけている。患者からのさまざまな質問に対し最適な回答をするため、常に多くの引き出しを持っていると考えているからだ。

「私が医師として大切に行っているのは、『何があってもうろたえない』こと。例えば、手術では患者の容態が急変したり、薬が合わずアレルギーショックを引き起こしたりするケースもあります。こうした予想外の出来事が発生した場合、命を守るために冷静かつ正しい判断をしなければなりません。どんな時も常に最悪の場合を考えながら、常に緊張感を持って治療にあたっています。医師としての経験を重ね、自信を確立しながら、『まだまだ患者のためにできることがあるはず』と思っています。医療は日進月歩で発展していますから、私も歩みを止めてはいけません。患者とスタッフを不安にさせないためにも、謙虚に学び続け、知識を蓄えることで自信につながっています」

開業から21年を迎えた今、島崎は「先祖代々から続く医師の稼業を次世代につなげ、地域の頼れるクリニックであり続ける」というビジョンを描いている。

「最も得意とする泌尿器科の治療については、さらに発展させていきたいです。近年、最新の医療機器を導入し、包茎手術などあらゆる悩みに対応できる体勢を整えました。クリニックとしては、地域で信頼され、選ばれる医療機関でありたいです。子どもから高齢者まで、どんな小さな不調でも『気になったら診てもらおう』と気軽に相談してもらえ、そんな『町のお医者さん』でありたいと思っています」